

[長崎市理財部資産経営室からのお知らせです。]

公共施設の将来のあり方を考える市民対話《琴海地区》

❀ 第3回 開催報告 ❀

ご参加いただいた皆さま
ありがとうございました。

日時 令和元年12月14日(土) 15:00~17:00

場所 琴海文化センター

参加者 地域の皆さん 15人



1 第3回までに話し合ってきた内容

第1回

(8/17)

- ①長崎市の**公共施設の現状**や**見直しの必要性**について
- ②琴海地区にある**施設の課題や問題点等**について

第2回

(9/28)

- ①市全体と琴海地区にある**公共施設の配置の考え方**を説明
- ②市が説明した**配置の考え方**に対して**課題やアイデア**を出しあう

第3回

(12/14)

- ①第2回でいただいたご意見等を踏まえて**市で検討した結果**を説明ついで
- ②**意見交換**
- ③**対話全体のまとめ**



2 皆さんからのご意見・ご提案と市からの回答

市民対話の中で皆さんからいただいたご意見・ご提案と、それに対する市からの回答です。また、当日お答えできなかったご意見・ご提案への回答についても合わせて掲載しています。

○施設配置のあり方

第2回

(参加者)
主な意見

- 公共施設の配置は校区で考えるべきものなのか。

第3回

(市)
お答え

○身近な場所や日常的に行動する範囲の中で受けられるサービスについては、基本的には学校区で考えていくこととしておりますが、琴海地区は他の地区と比べても面積が広いという特徴もございますので、今回の対話でお伺いした地域固有の事情を踏まえ、地区別計画策定の際に参考にさせていただきたいと考えております。



○地域おこし協力隊住宅

第2回

(参加者)
主な意見

- ここ数年使われていない。空き家を残しておくよりは、更地にした方が売れる可能性があるのでは。

第3回

(市)
お答え

○地域おこし協力隊の事業については、現在、次の隊員の方の募集を行っている状況です。

○なお、施設については老朽化しており、今後は職員住宅として市が所有する必要性もないと考えておりますので、速やかに用途廃止を行い、利活用を検討を行いたいと考えています。



2 皆さんからのご意見・ご提案と市からの回答（つづき）

○コミュニティ活動施設



第2回

(参加者)
主な意見

- 【琴海北部研修センター】
 - ・建っている位置を考えると、尾戸からも利用があっているのではないか。
 - ・体育館機能については、需要があるようなので残せないものか。
- 【琴海南部しらさぎ会館】
 - ・武道場としての機能を含め、琴海南部文化センターに集約できるのでは。
- 【琴海活性化センター】
 - ・琴海北部研修センターの厨房(調理室)を、設備が新しい活性化センターにまとめ、利用者が不便にならないよう、バス・タクシーの借上げにより交通の確保をしては。
 - ・会議室、ホール、調理室の機能は、琴海文化センターに全部揃っているのでは、集約してもいいのでは。

第3回

(市)
お答え

- 琴海地区には特に危険な施設、今すぐにでも見直しが必要な施設は少ない状況です。各施設のあり方や、各種機能の集約の時期等については、利用者の利便性等を勘案し、地域の方々のご意見を伺いながら検討していきたいと考えています。

○琴海地域センター長浦事務所



第2回

(参加者)
主な意見

- 職員が数名しかなくて、使っていない部屋もあるのでもったいない。使い方を考えた方がいいのではないか。郷土資料館として使うことも検討されていいのでは。
- 建物も古くなってきている。行政事務所としては、小さな事務所に建替えていいのでは。

第3回

(市)
お答え

- 施設の使い方については、職員体制から見ると、大き過ぎる状況であることは認識をいたしております。建物の耐用年数を概ね65年と考えた場合、現在の事務所はまだ十分に利用できる施設だと考えておりますので、未利用スペースの有効活用については、検討する必要があると考えています。
- 郷土資料については、区内でどの程度の分量があるのか現時点で把握できておりませんが、他にも何かアイデアがあれば、お寄せいただきたいと思います。

(参加者)
主な提案

- 琴海文化センターに移転集約できないだろうか。

(市)
お答え

- 長浦事務所は、行政サテライト機能再編成に伴い、長浦地区への市民サービスの提供を目的とし旧琴海行政センターに設置していますが、移転により現施設の利活用の選択肢も広がると考えられますので、長浦事務所の利用実態、琴海文化センターの状況、及び市民サービスへの影響等をふまえて検討を行いたいと考えています。

対話の様子



○その他



●デマンド交通(予約型乗合タクシー)を利用しようとして電話したが、断られたことがある。高齢者は次から利用しようと思わない。

(参加者)

主な意見

●各自治会集会所は運営が厳しくなっているので、電力の一括調達ができるよう、自治会も動くとして、市からも電力会社に働きかけることを考えてもらえないか。

●旧尾戸小学校について…

- インターネット環境を整えてから、サウンディング調査を行えば応募があるのでは。
サウンディング型市場調査の募集期間が3ヶ月では短いのでは。
- 近隣のカヤックの保管場所と併せた活用を検討してはどうか。
- 旧尾戸小学校は尾戸地域の中心に位置しており、解体してしまうと、地域コミュニティの組織が立ち上がった時に拠点として活用できる施設がなくなる。



○デマンド交通は、利用日の前日または当日の9時から17時の間に電話で予約を受け付けています。既にご希望の時間帯に予約が入っている場合は、先に予約をいただいた方の時間にあわせて乗合せていただいております。より多くの方にご利用いただくためにも、乗合せに対するご理解とご協力をお願いします。

(市)

お答え

○集会所は各自治会で運営されていますので、一括しての市から電力会社への働きかけは、困難であると考えております。

○旧尾戸小学校を含む大規模資産の利活用については、「サウンディング型市場調査」で応募がなかったことから、防犯上の観点から建物を解体し、更地にした上で売却することを基本として考えますが、皆様から頂いたご意見を参考に、建物付売却を含め、引き続きよりよい活用について検討して参ります。
また、地域のコミュニティ活動の拠点は市有施設に限らず、既存の自治会集会所や町立公民館を含めて検討していきたいと考えております。

【講評】 (アドバイザー：首都大学東京 都市環境学部 讃岐 亮 先生)

- 今回の皆様のご意見、ご指摘は、経営者目線、地域的な視点に立ってるなど感じたものばかりでした。そういう意味では、市にもしっかり受け止めていただきたい思います。
- この地域には、公共施設以外にも多くの資源があります。そこに皆さんの経営的・地域的視点を併せ、いかに未来のまちづくりに繋げて行くかというのが、これからの市民の皆さんと市との協業で必要になってくることじゃないかと思いました。今回の対話はゴールではなくて、ここからがスタートという位、一つの通過点でしかありません。皆さんには、ここで話し合っていた内容もそうですが、そこで発揮して下さった視点というか、発想みたいなものを、これからも是非持ち続けていただいて、地域での対話や、地域住民同士での対話などに臨んで行ってほしいと思います。



市民対話について

この市民対話は、「人口が減ったり、少子高齢化が進んでも、暮らしやすいまち」であり続けるため、公共施設のあり方・使い方について、地域の皆様と行政と一緒に考える場として、地域に必要な機能(行政サービス)を維持していくために、まちづくりにつながる公共施設の見直しについて、地域の声をお聞きし、できる限り、地域の実情にあった施設の見直しを行いたいという主旨から、以下を目的として開催させていただきました。



目的

- ① 公共施設の現状や見直しの必要性について、ご理解いただきたいこと
- ② 行政サービスの方向性や、その拠点の配置についての市の基本的な考え方をもとに、地区内に配置されている「施設の見直しの大きな方向性」について、一緒に考えていただくこと
- ③ 地域に住んでいるからこそわかる実情や問題点を踏まえた、ご意見やご提案をいただき、今後策定予定の地区別計画に反映させること

その中で、たくさんのご意見やご提案をいただきましたので、今後、市の中で検討する際の参考にさせていただきたいと思います。

3 今後の流れ



◆お問い合わせ：長崎市理財部資産経営室 (☎直通：095-829-1412)